



エールの会事務局の原田穂子さん

精神保健福祉の向上に貢献

10月20日に滋賀県大津市で開催された第65回精神保健福祉全国大会で、市の精神保健福祉ボランティア団体「エールの会」(葛西弘和会長)が、日本精神保健福祉連盟会長表彰を受賞しました。

エールの会は「地域で共に生きる」を合言葉に、精神障害者が安心して生活するための地域活動を当事者とともに展開。また、さびしい思いをしている高齢者の話に耳を傾ける「傾聴サロン」の開催など、地域の自殺予防対策推進に大きく寄与していることも評価され、今回の受賞となりました。副会長の戸井レキさんは「来年で設立から15年。節目を前に、変わらず続けてきた活動が認められてうれしい」と、喜びを語りました。

地域に根差した福祉を推進

森田学園(齋藤伸也園長)の創立50周年記念式典が10月28日、西北五地域療育等支援センターで行われ、入所児童および関係者ら約130人が50年のあゆみを振り返りました。同学園は昭和42年の開園以来、西北五地域で唯一の障害児入所施設として、障害福祉を推進する役割を担っています。式典では、学園を運営する西北五広域福祉事務組合の福島弘芳管理者が「障害を持つ子どもたちを支える拠点として、福祉の充実に努めてまいります」と式辞。参加者全員で学園歌を斉唱し、節目を祝いました。式典後は、児童と職員がミュージカル「コーラスライン・ワン」を披露。仲間の一体感を高めようと昨年から取り組んでいる成果を発揮し、会場は大きな拍手に包まれていました。



ミュージカルを披露する入所児童と職員



賞状とメダルを手にする長内さん

長内麻緒さんが歯・口の健康児童最優秀

稲垣小学校6年の長内麻緒さんが、平成29年度歯・口の健康児童青森県審査会で最優秀となる「県一」を受賞し、11月3日、青森市の県歯科医師会館で表彰されました。

長内さんは、よい歯の児童として2年連続で西つがる管内(西郡、つがる市)の代表に選抜。今年は、全学年から男女各1人が選ばれる県一に輝きました。特別なことはしていないと話す長内さんですが、1日3回の歯みがきを欠かさず、特に夜は歯間を意識して丁寧に磨くとのこと。基本をしっかりとして自然体で行ったことが受賞につながりました。

長内さんは「最優秀になれてうれしい。今後も歯を大切にしていきたいと思います」と話していました。

木造西幼稚園児が職場訪問

勤労感謝の日を前に11月9日、木造西幼稚園(吉田節子園長)の園児が市役所を訪れ、「毎日のお仕事ご苦労さまです。これからもお仕事がんばってくださいね」と市職員に感謝と激励のメッセージを伝えました。

この日は、13人の園児がシクラメンの花や手作りのおもちとカレンダーを職員らにプレゼントした後、鍵盤ハーモニカの演奏と歌で「虫のこえ」を披露しました。今正行総務部長は「元気の歌声とプレゼントありがとうございます。みなさんが笑顔で暮らせるように一生懸命仕事をがんばります。みなさんも風邪を引かないように元気にがんばってください」とお礼の言葉を述べました。



元気に合唱する園児たち

青銀従業員組合が児童図書を送贈

11月13日、青森銀行従業員組合（久保田秀穂執行委員長）が、市に30万円相当の児童図書一式を送贈しました。

これは、昭和55年の組合結成15周年を機会に、地域に貢献しようと始めた奉仕活動「ありがとう運動」の一環で、学校図書の送贈は平成22年度からスタートしました。従業員から年2回募った善意のお金で県内市町村に送贈しているもので、これまで累計28市町村に本を贈っています。

この日、市役所を訪れた久保田執行委員長は「今後地域を支えていく子どもたちのために活用してください」と福島市長に目録を伝達。福島市長は「大事に使わせていただきます」と感謝の言葉を述べていました。



福島市長に目録を手渡す久保田執行委員長(中右)。写真左は葛西教育長、右は松岡信木造支店長



「分別は楽しい習慣」と語る児童ら。左から長内彪雅君、川崎瑛流さん(ともに6年)、三上校長

稲垣小が2年連続県1位 小学生雑紙回収チャレンジ

県が主催する「小学生雑紙回収チャレンジ」で、稲垣小学校（三上高弘校長）が、2年連続で優秀校の1位に輝きました。

雑紙（ざつがみ）とは、ティッシュの空き箱など再利用可能な紙のこと。資源ごみ回収やリサイクルへの意識を高めてもらおうと、夏休み期間を利用して平成27年度から実施しています。今年は県内の全小学校が参加し、合わせて約23トン（報告分）を回収。稲垣小は全校児童146人で1063kg、児童1人当たりの回収量が県内トップとなる約7.3kgとなりました。

11月13日、三上校長らが福島市長に受賞を報告。三上校長は「家庭の協力もあり、楽しみながらやってくれた。地域にリサイクルが根づいていると感じます」と喜びを語りました。

地域と学校の歴史、脈々と

稲垣中学校（齋藤仁志校長）で11月18日、創立70周年記念式典が行われ、在校生103人と保護者らが同校のさらなる発展を誓いました。昭和22年創立の同校は、7,879人の卒業生を輩出。文武両道を目指し、特にバレーボール部は男女ともに強豪として知られています。式典では齋藤校長が「時代が変わっても学校の歴史は受け継がれていく。生徒の皆さんも、自分の未来予想図を描き実現するため努力を続けてください」と式辞。生徒会長の高橋星南君（3年）が「この仲間と節目を迎えることを誇りとし、みんなでよい学校にしていけます」と誓いの言葉を述べました。式典後は、元校長の井上守さんが、バレーボールの指導から学んだ思い出などについて講演しました。



式典に花を添えた3年生男子による応援演舞



講演する横田社長

先進農家の取り組みを学ぶ

つがる農業活性化フォーラムが11月20日、松の館で開催され、農業を意欲的に取り組む担い手や関係者ら約50人が、先進事例を学び農業経営への意識を高めました。フォーラムでは、有限会社横田農場（茨城県龍ケ崎市）の横田修一社長が「大規模水稻生産における新たな技術導入と6次産業化」と題して講演。ICT(情報通信技術)などの導入による生産コスト削減や米の販路拡大をねらった米粉スイーツ販売などの取り組みを紹介しました。横田社長は「コストを減らすのも限界がある。収量と品質を上げて収穫物あたりのコスト削減が必要」と話していました。

また、県内の6次産業化事例として、有限会社斗南丘牧場（むつ市）の原英輔社長が、地域の酪農振興の活動を報告しました。